

令和2年度 学校関係者評価書

NO. 1

鈴鹿市立石薬師小学校			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
確かな学力を育む教育	<p>1 授業改善・基礎学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働的な授業展開 → ICTの活用し、わかりやすい授業 → ICT活用研修を実施→アンケートで検証 授業交流 → 全員が授業交流をする <p>2 家庭学習の定着・学習ボランティアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の定着 → アンケートで検証 「みえスタ」からの弱みの克服 学習ボランティアの活用→学習ボランティア数と内容 <p>3 読書活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> →図書貸出し冊数 → アンケートで検証 (成果と課題) 達成状況を含む 	<p>・「授業はわかりやすいか」のアンケートで6年生の「はい」が少ないのが気になる。</p> <p>・計算カードや百ます計算はどんどんやってほしい。今、そろばん塾に行く子どもが減っていることも関係あると思うが、計算力は弱くなっていると思う。</p> <p>・ICT活用、プログラミング学習は興味があり、家庭での学習でも、ローマ字入力ゲームなどを体験させた。楽しく取り組んでいた。</p> <p>・他の学校と比べても宿題が多く、学習する時間も多と思う。学力も高いと思う。</p> <p>・1年生以上の家庭学習の時間が少ないのは、母親の仕事が原因なので、親に頼っているということなのか。家庭の協力はもう少し必要。</p> <p>・コロナ禍でも協力してくださるボランティアさんはありがたい。</p> <p>・高学年になるほど、読書の親しみは減る方向にあるのではないかと。読書以外にいろいろな興味が出てくるのではないかと。</p> <p>・読解力は中学校でも必要。家庭での読書活動を引き続き取り組む必要がある。</p> <p>・歴史や人生が学べるマンガもすすめてみてはどうか。</p>	<p>・ペア、グループで学ぶ機会を取り入れていく。</p> <p>・学調やみえスタの分析から得た弱みを授業や家庭学習で力を付けていく。</p> <p>・R3年度から児童一人1台パソコンになるので、ICT活用の取組をさらに進める。</p> <p>・「家庭学習の手引き」は引き続き配付して家庭学習の定着を図ると共に4年3学期から自主学習を取り入れているので、「自主学習の手引き」を作成し、配付する。</p> <p>・低・中学年で絵本から児童書への移行ができるように魅力的な本の紹介をしていく。</p> <p>・学級文庫を充実させる。</p>
	<p>1 授業改善・基礎学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働的な授業展開はコロナ禍において、難しい面があった。ペアやグループで学ぶ機会を取り入れていく。 ○ICTの活用によりわかりやすい授業に繋がった。ICT支援員の活用とICT研修。プログラミング学習研修を実施しパソコン活用できた。 ◇授業交流を行い、人権学習はできたが他の教科は充分ではない。 ○「みえスタ」の分析からの弱みの克服。 ★児童アンケート「授業はわかりやすいか」 → 「はい」「どちらかといえばはい」91% ・高学年になるにつれて「はい」の割合が減っているので、低学年からの確実な学力定着を図る必要がある。みえスタから分析された弱みを引き続き授業や家庭学習で力を付けていく。 <p>2 家庭学習の定着・学習ボランティアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「家庭学習の手引き」を配付し、学年に応じた宿題を出し、家庭学習の定着を図った。 ★児童アンケート「家で宿題や勉強をしているか」 → 「はい」「どちらかといえばはい」95% 大半の児童が自宅学習する習慣があり、自覚もできている。自宅学習の質も向上していくことが望ましい。 ○学習ボランティアは地域の方21人(12月)学生ボランティア(3人)昨年度より、活用場面を増やし、学習支援で学力定着を図った。 <p>3 読書活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書支援員を活用して積極的に読書活動に取り組んだ。ボランティアによる朝の読み聞かせも開始し、ファミリー読書も実施。 ★図書貸出し冊数 → 昨年1年間の86%(12月)本の貸出し冊数は昨年より増加 ★児童アンケート「読書は好きか」 → 「はい」「どちらかといえばはい」64% 1~3年生 肯定80%以上 6年 肯定44% 高学年につれ、読書離れの傾向がみられる。高学年になっても読書に親しみ意欲的な読書活動に繋げる取組をしていく必要がある。 		
人権教育・特別支援教育	<p>1 人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権学習の公開・児童理解のレポート研修→全担任公開・協議 全校児童の人権意識の向上 → アンケートで検証 <p>2 特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の研修 → 0JT, 研修講座参加 特別支援学級 通級指導教室の理解・共生 → 授業公開・交流 個別の教育支援計画作成・支援会議 → 支援ファイル作成 <p>3 多文化共生教育</p> <ul style="list-style-type: none"> JSLバンドスケールで日本語能力の把握 ・ 共生教育 <p>4 自尊感情・自己肯定感の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感の向上を図る取組をお行う。→アンケートでの推移 (成果と課題) 達成状況を含む 	<p>・いじめの項目を生活指導に集約する。</p> <p>・家庭でも子どもとも「いじめ」について話をする。</p> <p>・子どもたち一人ひとりの個性を大切に接してくれていてありがたい。</p> <p>・他学校がどのようにしているかわからないが、石薬師小学校の支援教育は手厚いと思う。児童をよく見て支援の必要な保護者とよく情報交換をしている。</p> <p>・今後の課題を具体的にし、来年度に反映する。</p> <p>・外国籍の子どもからは、生の外国語が聞けるので、コミュニケーション作りをしてほしい。</p>	<p>・いじめの項目を生活指導へ</p> <p>・以前は外国につながる保護者に協力を求めて授業を行っていた。今年度はコロナでできなかったが、来年度はぜひ多文化共生の授業に取り組みたい。</p>
	<p>1 人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権学習の公開は全担任が公開し深められた。助言者の招請により授業改善に繋がった。レポート研修年2回 ○各学級で仲間づくりや差別や人権についての授業を行った。 →白鳥中校区人権フォーラムに参加し、身近な人権問題を解決していくために今後どのように行動していけばよいかを学んだ。 →人権集会の実施(リモート)杉の子支援学校との交流や人権フォーラムの還流、人権作文の発表を行い、人権意識を高めた。 ★児童アンケート「いじめをなくそうとしている」→肯定90% ★自己肯定感アンケート 年4回実施 <p>2 特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級児童、通常学級における支援が必要な児童について情報共有・情報交換を行い共通理解を図った。児童の実態に合わせた支援ができた。→特別支援委員会(全員参加)年2回 ○特別支援教育の事例検討会(皇学館大学の渡辺先生助言)で学校全体として有効な支援方法や今後取り組むべきことを考えた。 →特別支援教育研修講座参加5人、その後還流 ○特別支援学級児童の理解授業(1学期 各学級)を行い、1年生と交流し共生教育を進めた。○通級指導教室は7月に保護者参観を行い教職員にも授業公開をした。 ○就学相談に際して支援会議をもち、学校での様子や家庭での悩みを出し合い今後の進路を一緒に考えあった。 →支援ファイル作成し、支援会議 (保1件、中3件、校内5件) <p>3 多文化共生教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バンドスケールで日本語能力を把握ができた。 ○通信や懇談会時に通訳を派遣依頼し、保護者支援をした。 ・全校にもさらに多文化共生教育を広げることが課題である。 		